

2022 年度

大学生の力を活用した集落復興支援事業

# 福島県只見町塩沢・十島地区 実態調査報告書



宮城大学小地沢研究室

2023 年 2 月

## 目次

1. はじめに	p.2
2. 集落概要	p.2
只見町	
塩沢・十島地区	
3. 事前調査	p.4
只見町の人口推移における課題	
只見町の移住・定住・地域交流の促進における課題	
只見町の積雪状況をはじめとする気象データ	
只見町における移動手段の協力	
只見町における店舗の設置状況	
只見町塩沢・十島地区周辺の集会所・公民館	
塩沢・十島地区内、地区外の病院の数	
4. 調査目的	p.19
5. 現地調査	p.20
工程表	
訪問地概要	
意見交換会	
6. 塩沢・十島地区の強みと弱み	p.29
塩沢・十島地区の強みと弱み	
地域資源	
7. 提案	p.32
提案の方針	
提案内容	
8. 今後に向けて	p.42
9. 参考文献	p.43
10. 謝辞	p.43

## 1. はじめに

### 大学生事業への参加の動機

小地沢研究室には、公共施設や県営住宅の計画や運営、災害後の復興事業、コミュニティと空間等、各々の研究テーマを通じて持続可能なまちづくりや復興について考えるメンバーが集っている。福島出身者も含めた本研究室メンバーで、福島県の集落を活性化するための調査とアイデアの創造に取り組み、自分達の地域の持続可能性を考える力も養いたいと考えた。また、本事業では地域の人々と触れ合うことを通じて、我々大学生の「よそ者」・「若者」の視点と地域の人々の視点との違いを捉えながら、集落の活性化のために解くべき課題と活用できる地域資源を考えていきたいという思いで事業に臨んだ。

## 2. 集落概要

### 調査地区

只見町塩沢・十島地区

#### 只見町

- ・福島県の西南に位置し、西南部は新潟県に接する。
- ・JR 只見線会津鉄道（東武鉄道・野岩鉄道）会津田島駅より車で1時間。
- ・町の中央に流れる伊南川や只見川の清らかな流れと、面積94%を占める豊かな森林資源に恵まれ、わが国屈指の豪雪地帯という厳しい自然環境。

人口……………3,857人

男……………1,900人

女……………1,957人

世帯数……………1,594世帯

高齢化率……………48.4% (2022年6月1日時点)



参考：<https://www.town.tadami.lg.jp/abouttown/summary/index.html>

### 塩沢・十島地区

- ・只見町の最北、金山町に隣接し、只見川の両岸に集落を構えている。
- ・景観が良く、町内でも人気のスポット。
- ・河井継之助記念館や山林資源、文化的要素など地域資源も豊富。
- ・人口の減少が激しく、最も高齢化が進行している。

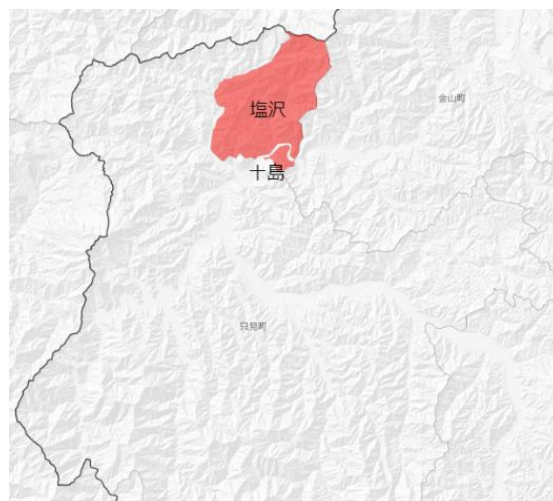
人口……………56人

男……………29人

女……………27人

世帯数……………29世帯

高齢化率……塩沢：76.9%、十島：65.1%



### 3. 事前調査

#### 只見町の人口推移における課題

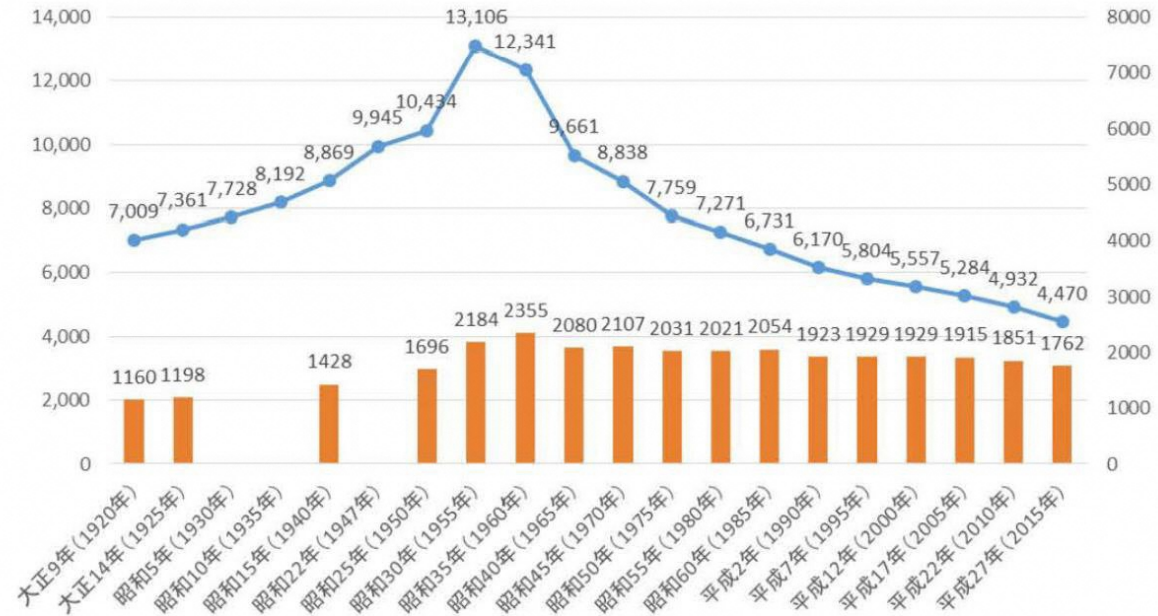


Fig. 1 総人口の世帯数の推移

Table 1 自然動態の推移

	出生	死亡	増減
平成7年(1995年)	46	73	-27
平成8年(1996年)	65	82	-17
平成9年(1997年)	38	86	-48
平成10年(1998年)	34	69	-35
平成11年(1999年)	36	73	-37
平成12年(2000年)	35	76	-41
平成13年(2001年)	32	68	-36
平成14年(2002年)	34	67	-33
平成15年(2003年)	31	65	-34
平成16年(2004年)	27	76	-49
平成17年(2005年)	33	82	-49
平成18年(2006年)	40	73	-33
平成19年(2007年)	35	98	-63
平成20年(2008年)	29	95	-66
平成21年(2009年)	32	93	-61
平成22年(2010年)	28	100	-72
平成23年(2011年)	25	99	-74
平成24年(2012年)	26	75	-49
平成25年(2013年)	31	88	-57
平成26年(2014年)	19	91	-72
平成27年(2015年)	15	83	-68
平成28年(2016年)	22	80	-58
平成29年(2017年)	28	90	-62
平成30年(2018年)	19	74	-55

出典: 福島県現住人口調査

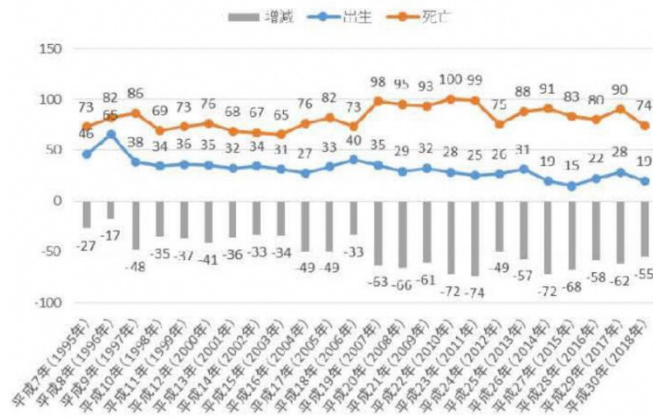


Fig. 2 自然動態の推移

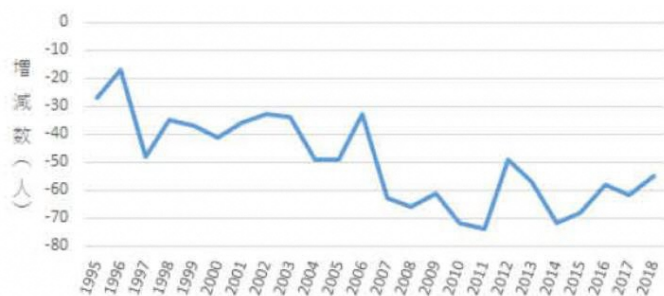


Fig. 3 自然動態の推移 増減



## 只見町の移住・定住・地域交流の促進における課題

- ・移住・定住の促進
  - ・体制整備や情報提供などの仕組みづくりが求められている。
  - ・住宅不足の解消が急務であり、定住住宅の建設前に住宅を確保するため民間の賃貸住宅の借り上げを行う必要があるなど、移住・定住者が安心して生活空間を築けるための住環境整備が十分でない。
  - ・適切な社会保障の実施を図る特定地域づくり事業組合の設立が必要。只見働き隊事業協同組合という特定地域づくり事業組合が一件設立されているが、令和4年4月28日に認定を受けたばかりで、活動の詳細についての情報はなし。
- ・地域間交流の促進
  - ・交流人口や関係人口の増加を図り、移住・定住に繋げていくことが課題である。
  - ・新型コロナウイルス感染症拡大により、観光客が低迷している。
  - ・日本有数のローカル鉄道只見線や恵の森でのシャワートレッキングなどの地域資源を活用した観光需要の発信が十分ではない。
  - ・サテライトオフィス誘致やテレワーク施設整備を目指しているが、計画策定までは至っていない。(過疎地域持続的発展計画に、地域間交流の促進の対策の1つとして記載されているが、具体的な計画についての記載はない。)
- ・商業・工業の活性化不足
  - ・全国の人口増加地域の特徴として、大規模な移住・定住の要因となりうる製造業、商業の集積等がみられる。
  - ・只見町広域に集落が点在しているため商業集積地はできにくい環境である。
  - ・旧村単位に商業圏を構えそれぞれが地域の消費を賄っている状態である。
  - ・家族従業員による小規模店が多く、後継者不足の問題などで厳しい状態となっている。
  - ・安定した就労機会の拡大が只見町の工業分野における最大の課題である。
  - ・多雪などの自然条件や交通基盤が弱い状況で大規模な企業誘致は困難な状況にある。
  - ・以前はニコン子会社の向上があったが2021年に閉鎖した。

## 参考文献：

- ・只見町人口ビジョン
- ・過疎地域持続的発展計画（案）令和3年度～令和7年度
- ・地方において人口の増加した市町村の特徴（内閣府 経済財政白書 地域の経済2014）
- ・昼間人口・夜間人口の地域別構成割合（RESAS 地域経済分析システム）

## 只見町の積雪状況をはじめとする気象データ

要素	降水量 (mm)	平均気温 (°C)	日最高気温 (°C)	日最低気温 (°C)	平均風速 (m/s)	日照時間 (時間)	降雪の深さ合計 (cm)	最深積雪 (cm)
統計期間	1991～ 2020	1991～ 2020	1991～ 2020	1991～ 2020	1991～ 2020	1991～ 2020	1991～ 2020	1991～ 2020
資料年数	30	30	30	30	30	30	30	30
1月	302.3	-1.2	2.2	-4.2	///	34.1	387	187
2月	216.3	-1.0	3.0	-4.6	1.0	52.3	300	223
3月	164.7	1.6	6.6	-2.5	1.0	91.7	195	198
4月	114.6	6.8	13.8	1.3	1.0	149.8	82	128
5月	100.4	13.8	21.3	7.3	1.0	186.7	4	8
6月	147.0	18.5	24.7	13.6	0.8	139.5	0	0
7月	321.1	22.4	28.0	18.4	0.7	130.9	0	0
8月	196.3	23.4	29.5	19.3	0.7	163.2	0	0
9月	151.8	19.2	24.8	15.4	0.7	119.0	0	0
10月	176.5	12.8	18.4	9.0	0.8	102.0	0	0
11月	227.4	6.3	11.8	2.6	1.0	80.0	16	6
12月	321.7	1.3	5.1	-1.6	1.0	44.4	256	104
年	2445.9	10.3	15.8	6.2	///	1295.4	1233	231

図1：只見町気象データ(平均値)

### ○図1における仙台市との比較

▷**降水量**に関して雨天が続く5～10月に着目すると、只見町は仙台市と同等又はそれ以上を見込む年が多い。特に7月の降水量について、只見町は仙台市の1.8倍である。

※**年間降水量**に関して仙台市は1276.7mmであり只見町は2445.9mmである。只見町の豪雪が数値差に影響を与えている。

▷**平均気温**に関して、只見町はどの時期も仙台市より低い(仙台市：12.8°C)

▷**年間日照時間**に関して、仙台市は1836時間であり、一方の只見町は1295時間である。

※日照時間・・・直射光によって物体の影が認められる程度の時間

要素	雪													
	降雪の深さ		各階級の日数(降雪の深さ)						最深積雪 (cm)	各階級の日数(最深積雪)				
	合計 (cm)	日合計の最大 (cm)	≥3cm	≥5cm	≥10cm	≥20cm	≥50cm	≥100cm		≥5cm	≥10cm	≥20cm	≥50cm	≥100cm
統計期間	1991～ 2020	1991～ 2020	1991～ 2020	1991～ 2020	1991～ 2020	1991～ 2020	1991～ 2020	1991～ 2020	1991～ 2020	1991～ 2020	1991～ 2020	1991～ 2020	1991～ 2020	1991～ 2020
資料年数	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30
1月	387	49	23.5	19.2	14.6	7.2	0.5	0.0	187	30.0	29.7	29.0	27.4	18.9
2月	300	41	20.5	16.2	11.1	5.4	0.2	0.0	223	28.2	28.0	27.8	27.3	24.8
3月	195	31	20.7	12.8	5.5	2.0	0.1	0.0	198	30.2	30.0	29.8	29.1	24.6
4月	82	12	13.0	6.5	1.2	0.2	0.0	0.0	128	20.1	19.7	18.9	15.6	8.7
5月	4	1	0.6	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	8	0.9	0.8	0.6	0.0	0.0
6月	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
7月	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
8月	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
9月	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
10月	0	0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
11月	16	5	1.9	1.0	0.5	0.1	0.0	0.0	6	1.9	1.1	0.4	0.0	0.0
12月	256	50	14.9	11.9	7.9	4.6	0.6	0.0	104	18.7	17.3	14.5	9.4	3.8
年	1233	59	94.5	67.9	40.8	19.4	1.4	0.0	231	129.7	126.3	120.5	108.6	81.8

図2：只見町の積雪に関する気象データ(平均値)



○図2における仙台市との比較

▷只見町は特別豪雪地帯に指定されている。(全1719市町村のうち201市町村が指定)

※特別豪雪地帯…豪雪地帯のうち、積雪の度が特に高く、自動車の交通が長期間途絶することなどから、住民の生活に著しい支障が生じている地域のこと。

▷年平均積雪量に関して仙台市は59cmであり、一方の只見町は1233cmである。(仙台市の約20倍)

▷11月から4月にかけて積雪があり5月初旬まで残雪があることから、この期間の現地調査及び移動については注意が必要。



図3：家庭用除雪機による除雪



図4：高所作業車による屋根の雪下ろし

○参考文献

▷只見町気象データ

国土交通省，気象庁，

[https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/view/nml\\_amd\\_ym.php?prec\\_no=36&block\\_no=0297&year=&month=&day=&view=a3](https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/view/nml_amd_ym.php?prec_no=36&block_no=0297&year=&month=&day=&view=a3)，（閲覧 2022/09/01）

▷仙台市気象データ

国土交通省，気象庁，

[https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/view/nml\\_sfc\\_ym.php?prec\\_no=34&block\\_no=47590&year=1969&month=5&day=15&view=p1](https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/view/nml_sfc_ym.php?prec_no=34&block_no=47590&year=1969&month=5&day=15&view=p1)（閲覧 2022/09/01）

▷只見町の積雪状況

只見町 HP，<https://www.town.tadami.lg.jp/akiyabank/information/2020/11/003366.html>  
（閲覧 2022/09/01）

▷豪雪地帯・特別豪雪地帯の指定

国土交通省，<https://www.mlit.go.jp/common/001475892.pdf>（閲覧 2022/09/01）

## 只見町における移動手段の協力

### ○学校における交通

#### ▷小学校

- ・スクールバス通学が不可欠だが、下級生にとって 30 分以上の長時間乗車は負担になる。
- ・冬季は安全のため全員スクールバスでの通学を検討したい。雪ん子タクシーの利用も考えられる。
- ・一方、通学に自動車などを過剰に用いることで、生徒の体力が減少する（鍛えられない）懸念もあると考えられる。

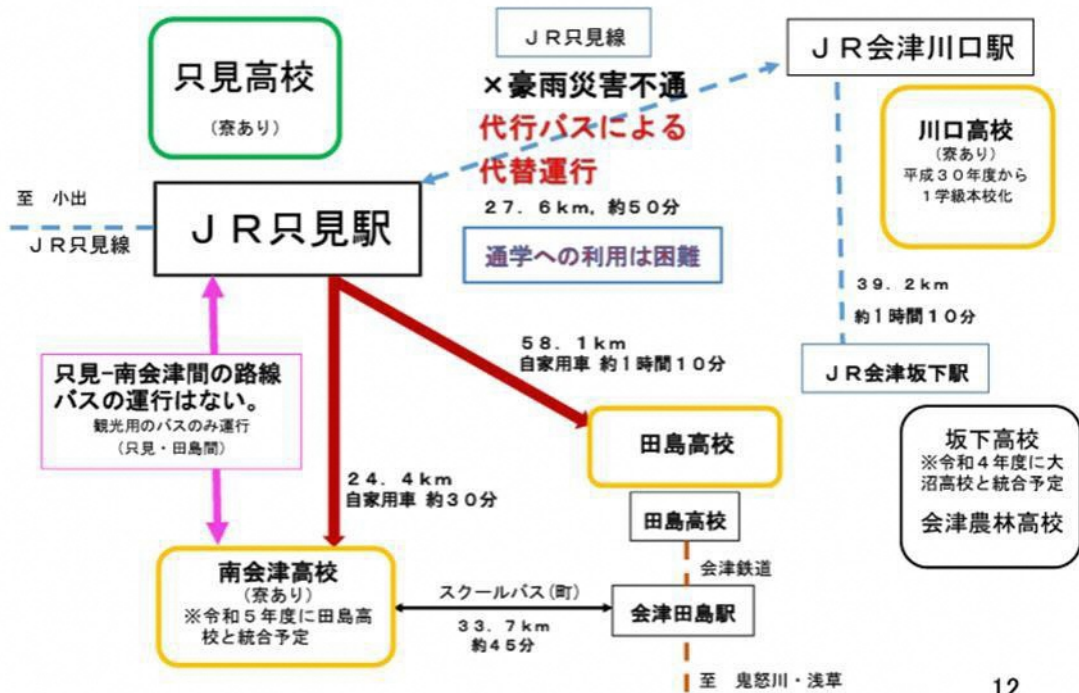
#### ▷高校

- ・南会津高校や田島高校の場合、只見駅間に路線バスの運行がない（南会津間は観光バスのみ）。南会津高校はスクールバスで、田島高校は会津鉄道で会津田島駅へ。

### ○只見町から近隣への交通手段等<sup>1)</sup>

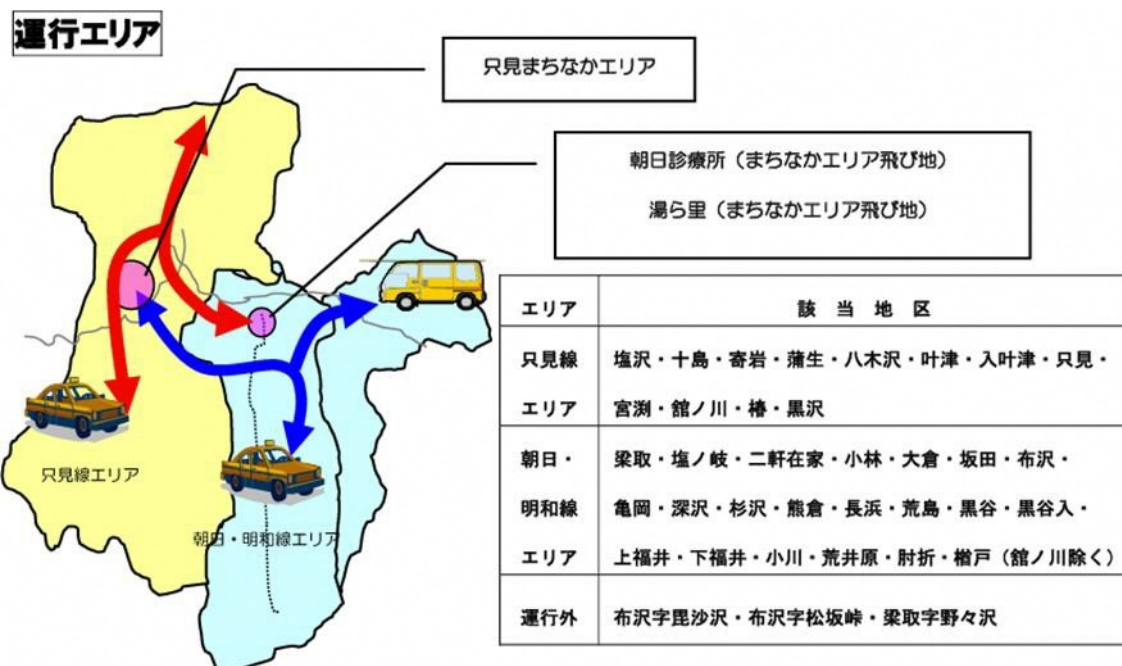
## 5 地理的条件 — 只見町から近隣への交通手段等 —

[只見町における公的交通機関状況] ……只見線のみ（会津若松方面は只見—会津川口間で豪雨災害により不通のまま）



○只見町の公共交通<sup>2)</sup>

▷雪ん子タクシー（町内移動）<sup>3)</sup>



- ・只見町デマンド交通として 2006 年 10 月から運行
- ・平日 7:00~16:30 片道 1 回 200 円（小中学生 100 円 幼児無料）
- ・町内全域をドア to ドアで移動可能
- ・只見町商工会が町内タクシー業者 2 社と連携し実施
- ・南会津町巡回バスとの接続にも利用可能
- ・2014 年は片道 1 回 500 円で「買い物支援事業として、町内の商店で買い物をする場合は利用料金の割引を行う」<sup>4)</sup> としたが、2019 年に片道 1 回 200 円に価格改定<sup>5)</sup> されたことから、恐らく現在は割引されないと考えられる（最新の資料には割引に関する記載無し）。

▷自然首都・只見号（町外移動）<sup>5)</sup>

- ・2015 年 4 月導入
- ・只見駅⇔会津田島駅の定期路線バス 午前午後の 1 日 2 往復
- ・町内の移動は一律 200 円、町内～県立南会津病院・会津田島駅は 1500 円
- ・只見町商工会が町内タクシー 2 社と連携し実施
- ・雪まつりなどのイベント時に多くの人が利用する

▷福祉乗合いいきいきバス（区域乗合）<sup>5)</sup>

- ・2011 年 12 月導入

- ・片道 1 回 200 円 家族など付き添い人は無料
- ・会津ただみ振興公社が主に運営
- ・車椅子を利用している方が対象で、主に通院などの送迎事業を行う。

#### ○交通手段における課題

▷自分の時間や住む場所に合わせた公共交通の利用が可能である一方で、休日や 17 時以降の非対応時間帯でも移動手段の需要は高く、その対応が必要である。また、農業の作業削減や観光事業の振興を目的として、2017 年から 2018 年末にかけて超小型モビリティの公道走行が認定<sup>6)</sup>された。このことから、公共交通か自家用車かの二極分化が只見町の交通面での課題解決には繋がらないと考える。

#### ○分からなかったこと

- ▷免許の返納率（主に高齢者）
- ▷デマンド交通全体の利用目標人数は定められているが、実際の利用者の割合は分からない。

#### ○参考文献

- ▷1)…第 1 回県立高等学校改革懇談会「只見」福島県教育委員会, 福島県 HP, <https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/365903.pdf> (閲覧 2022/09/01)
- ▷2)…福島県只見町 移住・定住ガイドブック, 只見町 HP, <http://www2020.tadami-nk.com/2021/05/07/279b3258754786e3bcf7e1d873ea5a5f.pdf> (閲覧 2022/09/01)
- ▷3)…只見雪ん子タクシー, 只見町商工会 HP, <http://tadamisci.com/wp/wp-content/uploads/2020/09/H31yukinkotaxi.pdf> (閲覧 2022/09/01)
- ▷4)…列車は新潟へと乗客を運ぶ - 只見町 (2014 年 3 月 31 日), 只見町 HP, <http://www.tadami-nk.com/publicity/File/2013/517-allPage/Page2-6.pdf> (閲覧 2022/09/01)
- ▷5)…新町の公共交通-只見町 (2019 年 4 月 12 日), 只見町 HP, <https://www.town.tadami.lg.jp/publicity/File/2019/04/12/No587Page/Page2-7.pdf> (閲覧 2022/09/01)
- ▷6)…自然首都・只見町を『自然にやさしい車』が走り出します! (2017 年 3 月 14 日), 国土交通省 東北運輸局, <http://www.tb.mlit.go.jp/tohoku/puresu/puresu/jg170314.pdf> (閲覧 2022/09/01)

## 只見町における店舗の設置状況

### ○塩沢・十島地区内の食料品店

▷なし

### ○地区外の食料品店

▷スーパーマーケット

- ・ブイチェーン 只見店（毎日9：00~19：00 営業、車での所要時間 11分）
- ・只見町物産販売所（土日の10：00~15：00のみ営業、車での所要時間 20分）
- ・まーけっと三日町（毎日9：30~17：00 営業、車での所要時間 18分）
- ・川原田商店（毎日7：00~20：00 営業、車での所要時間 29分）

▷コンビニ

- ・ヤマザキショップ 只見松屋店（毎日8：00~21：00 営業、車での所要時間 10分）
- ・ヤマザキYショップ 只見よろずや（営業時間不明、車での所要時間 19分）
- ・駅前ストア（営業時間不明、車での所要時間 11分）

### ○食料品店マップ



○その他店舗

- ▷雑貨店
- ▷文房具・スポーツ店
- ▷金物店屋
- ▷パン屋 2件
- ▷薬局

○生じている課題

- ▷衣料品など町内で購入できないものもある
  - インターネット通販で購入される方が多いとされているが、高齢者がインターネット通販を利用できているかは分からない。
- ▷車がないとスーパーまで行くのに不便
  - 買い物支援移動販売車「ただみほほえみ便」が運航（火、水、木曜日）「ふなき介護タクシー」が介護必要者への買い物、買い物代行等を行う。

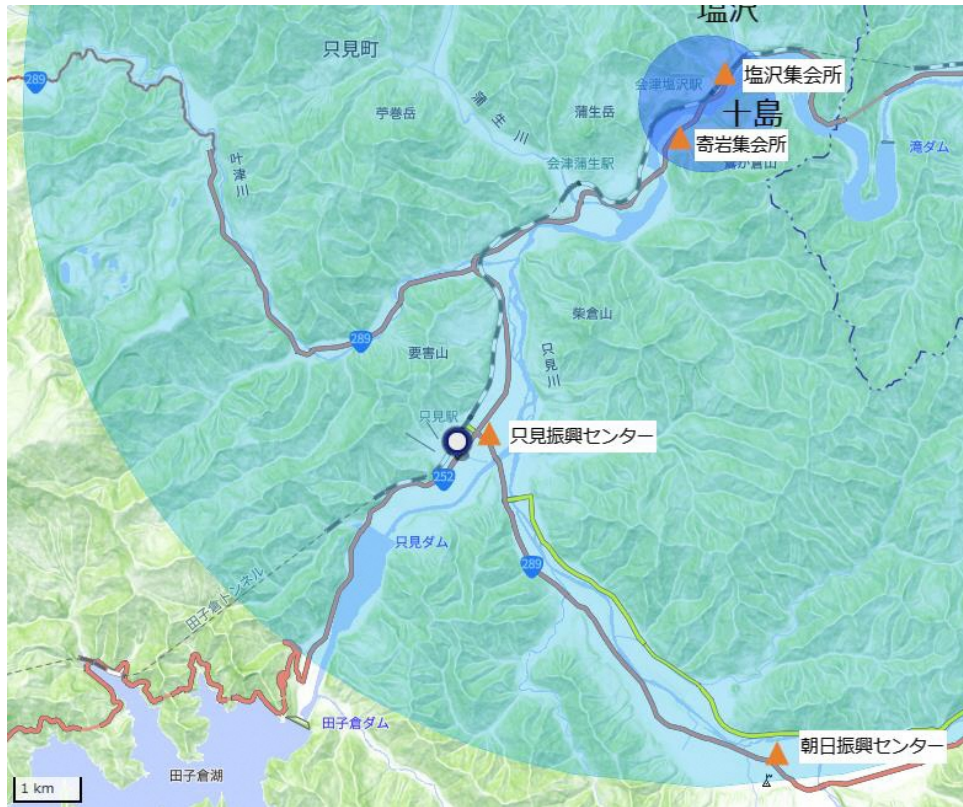
○参考文献

- ▷只見町公式ホームページ，福島県 HP，  
[https://www.town.tadami.lg.jp/publicity/2021/10/08/No617Page/Page 12-15.pdf](https://www.town.tadami.lg.jp/publicity/2021/10/08/No617Page/Page%2012-15.pdf)（閲覧 2022/09/01）
- ▷移動販売車「ただみほほえみ便」，福島県只見町【移住・定住】公式 note，  
<https://tadami-town.note.jp/n/n062c1a679f76>（閲覧 2022/09/01）
- ▷只見町 移動販売で見守り支援-YouTube，テレビユー福島，  
<https://www.youtube.com/watch?v=AgoD3BJT22Y>（閲覧 2022/09/01）

## 只見町塩沢・十島地区周辺の集会所・公民館について

○会津塩沢駅から半径 10km 以内の公民館（市町村設置）

▷施設位置図（水色は半径 10km の円、青色が半径 1km の円）



▷只見振興センター<sup>1)</sup>

- ・2014年の町組織機構改革により、「只見地区センター」が「只見振興センター」に名称変更。
- ・振興センターHPでは2014年度の活動のみの記載。
  - …青年交流事業 →町内の青年同士で交流を図るため、横浜方面（2014年度）に研修。
  - …町民ハイキング →毎年5月に只見湖岸を家族や友人と一緒に散策（2018年度の開催も確認）。
  - …各種講座事業 →染め物やつる細工、折り紙や郷土料理など。
- ・インターネット上で確認できた他年度の活動
  - …只見町文化祭<sup>2)</sup> →2015年、2019年に開催されたことは確認できたが、他の年度については不明。町民が、昔語りコーナー・食堂・芸術（絵画）展・手芸民芸の体験コーナーなど様々なブースを設置する。住民同士の交流を期待できる。確認できたいずれの年度も11月3日（文化の日）に開催している。

▷朝日振興センター<sup>3)</sup>

- ・2014年の町組織機構改革により、「朝日地区センター」が「朝日振興センター」に名称変更。
- ・振興センターHPでは2014年度の活動のみの記載。
  - …各種講座事業 →陶芸教室、ほうきづくり教室、つる細工教室、草木染め教室など。
  - …親子クッキング講座→ホットケーキミックスで簡単ソーセージパン（平成26年6月15日）、おうちでクレープ屋さん（平成26年9月28日）、簡単バレンタインチョコ（平成27年2月8日）。
- ・他年度の活動
  - …ちょボラゴミ拾い →春・秋に町内を清掃する活動。広報内の写真には様々な世代の方たちが参加している様子が見て取れる。
  - …朝日クリスマス会 →毎年12月に開催。コロナ禍ではドライブスルー方式で開催されている。
  - …朝日ふれあい運動会→集落対抗で行われる運動会は、様々な世代の方々が参加し、世代間交流が期待できる。しかしコロナ禍での開催については記載がない。

○振興センターと集会所を扱う上で重要と考えられる点

- ▷塩沢・十島地区の方々にとって、最も利用されている振興センター・集会所は？
- ▷塩沢・十島地区の方々にとって、最も利用したい振興センター・集会所は？
- ・利用したい施設であるのに、最も利用されていないのはなぜか。
  - …通行手段が無いor不便？
  - …既存のコミュニティへの参加がしにくい？
- ▷町内で高齢化・人口減が進む中、集会所の維持管理方法はどのようにしていくのか。

○参考文献

- ▷1) …只見振興センター，只見町HP，  
<https://www.town.tadami.lg.jp/abouttown/summary/center/tadami.html>（閲覧2022/09/01）
- ▷2) …R01文化祭ご案内，只見町HP，  
<https://www.town.tadami.lg.jp/information/2019/10/002752.html>（閲覧2022/09/01）
- ▷3) …朝日振興センター，只見町HP，  
<https://www.town.tadami.lg.jp/abouttown/summary/center/asahi.html>（閲覧2022/09/01）
- ▷4) …只見振興センターだより 第16号（2018），只見町HP，  
[https://www.town.tadami.lg.jp/File/2019/11/11/center\\_dayori16.pdf](https://www.town.tadami.lg.jp/File/2019/11/11/center_dayori16.pdf)（閲覧2022/09/01）



## 塩沢・十島地区内、地区外の病院の数

### ○塩沢・十島地区内の病院について

▷それぞれの地区に病院や診療所は見当たらず、塩沢地区の最寄りの病院は16.7km先の「只見町国保 朝日診療所」（あいあい薬局 只見店 併設）、8.4km先の「赤塚歯科医院」である。<sup>1)</sup>

### ○地区外の病院について

▷只見町国民健康保険朝日診療所…只見町長浜久保田 31



- ・ 外来診療…1日平均 56 人（年間平均）
- ・ 入院………1日平均 10 人
- ・ 歯科外来…1日平均 22 人
- ・ 各種予防接種や訪問医療（在宅寝たきり）、学校医、保育所嘱託医など<sup>2)</sup>を担っており、只見町の医療を支えている機関といえる。

▷赤塚歯科医院…只見町只見上ノ原 1789-8

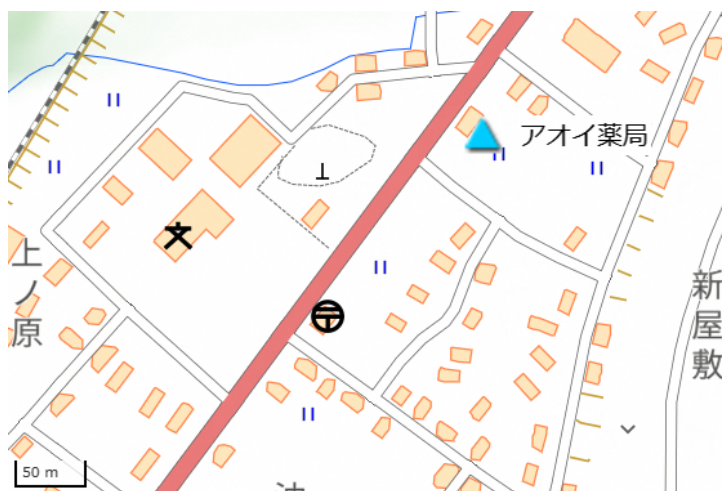


○薬局

▷あいあい薬局只見店…只見町大学長浜字唱平 23-2



▷アオイ薬局…只見町只見前 1321-2



○その他

▷只見町は各地域で集団健診・検診を行っている<sup>3)</sup>。

○分かったこと

▷塩沢・十字地区に病院や診療所がない

- ・只見町自体病院が少なく、朝日診療所のみ複数の医療科がある（総合診療科《内科、外科》、整形外科、リハビリテーション科、歯科）<sup>2)</sup>。
- ・病院に行くには大きな移動が伴うので、車やバスなどの移動手段が必要である。

○現地で調査すべきこと

▷内科、歯科以外の病院は？

- ・体調が悪かった時などは、どのような交通手段を用いて病院へ行っているのか。
- ・通院している（高齢者などの）方々は、どのような交通手段を用いて病院へ行っているのか。

○参考文献

▷1) …塩沢区-只見町，只見町HP，

<https://www.town.tadami.lg.jp/abouttown/card/2022/19.pdf>（閲覧 2022/09/01）

▷2) …朝日診療所紹介，只見町HP，[https://www.town.tadami.lg.jp/asahi\\_clinic/about.html](https://www.town.tadami.lg.jp/asahi_clinic/about.html)  
（閲覧 2022/09/01）

▷3) …只見町 各種集団健診・検診日程表，福島県HP，

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/511734.pdf>（閲覧 2022/09/01）

#### 4. 調査目的

##### 集落側から挙げられていた課題

- ・ 高齢化の進行
- ・ 空き家の増加とその対応について
- ・ 水路の管理や農地の荒廃など集落の生活機能の維持が困難になっているため、今後の共同作業などの実施方法について

##### 集落側からの大学生への期待

- ・ 若い世代と交流および意見交換を行い、集落の活性化や維持を図っていきたい。
- ・ 約40年前には学生村という事業を行っており、昔のよき思い出を再現したい。
- ・ 第二の故郷とあっていただき、関係人口となって地域資源を使った起業などに繋がれば理想的である。

##### 調査目的

事前調査から、積雪量が多いことや地区内に買い物のできる場所が少ないことがうかがえた。加えて、塩沢・十島地区は只見町の中でも高齢化率の高い地区であり、こうした現状に伴い、高齢者の生活における課題が多いと推測された。従って、現地調査においては、高齢者の生活に関する事項について深掘りし、提案につながる情報を集めることを調査目的として取り組んだ。

## 5. 現地調査

### 工程表

○調査地域

福島県只見町 塩沢（しおざわ）・十島（じゅうじま）地区

○現地調査期間

令和4年9月15日(木)～16日(金)

○利用交通手段

自家用車3台で向かう。

○宿泊地

季の郷 湯ら里

○お世話になる方々

酒井さん（只見町職員）

渡部さん（塩沢・十島地区行政区長）

1日目 9月15日(木)		
時分	行程	内容
11:30	昼食(1時間)	車ごとに集合・出発し、ファットリアこもとので落ち合う。
	移動(1時間)	ファットリアこもと
		ガソリン補給、道の駅奥会津かねやま
13:30	酒井さんと合流	河井継之助記念館駐車場で合流し集落の方への挨拶と自己紹介
14:00	調査	十島ビューポイント
15:00	調査	十島地区の集落散策(十島ため池、わらび園他)
16:00	調査	塩沢地区の集落散策(河合継之助の墓、医王寺、わらび園他)
17:00	移動開始	集落を出発、ホテルへ移動
17:30	宿到着	季の郷湯ら里 チェックイン
18:00~	宿出発	
18:15		塩沢集会所へ出発
19:00	意見交換会	集落の方との意見交換会
20:30	集会所出発	集会所出発、夕食のため移動
21:00	夕食	ダイニングキッチンいわさき
		※食事前か食事後に16日の行程等について全体で共有。
22:30	ホテル着	部屋ごとに分かれ就寝

2日目 9月16日(金)		
時分	行程	内容
8:15	ロビー集合	各自朝食と身支度を済ませ、全ての荷物を持ってロビーに集合し、チェックアウトを行う。 ※朝食はホテルのバイキングで7:00 から利用可能。
8:30	ホテル出発 移動(18分)	ブナセンターに向かう
9:00	酒井さんと合流	ブナセンター到着
10:00	調査	河井継之助記念館、山塩資料館見学
11:30	出発	資料館を出発し昼食へ。車毎に昼食をとるため分かれて移動。
12:50	集合	車ごとの昼食を終え、集会所に集合。
13:00	意見交換会	集落の方との意見交換会
15:00	集落出発	集落の人にあいさつを済ませ、只見を出発→解散。車毎に帰宅
16:00	休憩	セブンイレブン坂下インター店 ～会津坂下IC～郡山JCT～泉IC～宮城大
17:00	休憩	五百川サービスエリア
18:00	休憩	蔵王サービスエリア
19:30	各自自宅到着	解散

## 塩沢・十島地区の訪問地概要

### ▷十島ビューポイント

神社があり、そこから只見川や塩沢集落を望む。美しい景観が期待でき、「只見線ポータルサイト」においても撮影ポイントとしておすすめされている。



### ▷十島観光わらび園・塩沢観光わらび園

観光わらび園は只見町に6か所ある。十島ではわらびは6月上旬～6月下旬がシーズン。塩沢ではこごみは5月中旬、わらびは5月下旬～7月上旬がシーズンとなっている。豊かな自然が広がっており、十島観光わらび園は山の上にある静かなわらび園である。塩沢観光わらび園には、ゆるやかな山の斜面に広がるわらび畑が集落内に4か所あるが、コロナ禍では山菜祭りが行われておらず、観光わらび園でのわらびの生産も行われていなかった。

塩沢観光わらび園を案内頂いた際に、春先に行われる野焼きについて住民の方に教えていただいた。そこでは、野焼き自体を観光資源としたり、外部から作業のためのボランティアを募ることで関係人口を生み出したりするといった可能性があることについて住民らと意見交換をした。



#### ▷河井継之助の墓（医王寺）

河井継之助は、戊辰戦争の一部である北越戦争で長岡藩側を主導したことで知られる武士であり、長岡藩の役人として、様々な改革を打ち出した。大政奉還後に起きた戊辰戦争で、当初新政府との和睦を目指し小千谷会談に臨むが、決裂し、越後での北越戦争に突入する。その戦いで新政府軍と交戦の上、敗走した継之助は、撤退途中に容体が急変し、この世を去った。その終焉地が只見町であった。医王寺の墓は、火葬の際に残された遺骨を村民が拾い集めて建てたもので、新政府軍の目を欺くため、文字は刻まず祠の様式にした。墓は住民によって当番制で維持管理されている。墓を訪れる人には、新潟から来た観光客も比較的多いという。



### ▷河井継之助記念館

河井継之助が没した只見町塩沢地区にあり、継之助に関する様々な資料、戊辰戦争に関する資料などが展示されている。資料の他にも、終焉の間である医師の矢澤宗益宅の一室が当時の面影のまま保存されており、司馬遼太郎の「峠」の世界コーナーなどがある。



### ▷山塩資料館

河井継之助記念館の隣に位置する記念館。只見町塩沢地区では、古くから製塩が行われており、その際の製塩工場の模型や、様々な資料が展示されている。



### ▷簡易郵便局

塩沢地区にある簡易郵便局では、コロナ禍以前に只見振興協議会による蕎麦打ちや、住民が創った野菜の販売等が行われていた。現地調査 2 日目に訪れた際も、1 日目に案内頂いた渡部さんや意見交換会に来てくださった方とお会いでき、地域住民の憩いの場の一つとなっている印象であった。





### ▷会津塩沢駅

JR 東日本の只見線は、2011年7月の新潟・福島豪雨で被害を受けて以降、運休が続いていたが、2022年10月1日に運行再開を果たした。現地調査時は再開前であったが、会津塩沢駅前は無人駅ではあるが、塩沢老人会によるのぼりと花とで只見線利用者を迎えるムードが感じられた。2022年10月には、只見線再開の報道を受けて只見線に興味を持った関東圏の人を中心に、7組限定の移住体験ツアーに5名が参加した。

再開通で賑わう一方で、撮り鉄と思われる人達が山の中などどこへでも入ってってしまう様子を住民らが心配していたり、路上駐車や民地の駐車場への勝手な駐車、ドローンを飛ばす人などに住民らが困惑していたりする現状があるとのことであった。



### ▷住民によって植樹された沿岸

塩沢・十島地区行政区長の渡部さんによって、只見川沿岸に苗木が植えられていた。只見川沿岸の風景に対する渡部さんの意識の高さをうかがえた。



### ▷ボート置き場

只見川沿岸にあるボート置き場は、ボート部が練習で使用していたことがあるとのことであった。只見川という自然を活用したレジャーを楽しむ上で、こうした場所が既にあることは集落の強みであるといえる。現地訪問時も比較的綺麗な状態であった。



### ▷空き家

集落側からは、空き家の増加が課題として挙がっていた。現地で空き家を拝見した印象としては、空き家となった現在でも豪雪にも耐えるしっかりとした造りではあるものの、利用方法を創出しなければ今後老朽化が進み、利用できる見込みが限りなくなってしまうのではといったものであった。



### ▷民宿いわぶち

追加調査で当研究室の学生1名が集落を訪問した際に宿泊した。民宿を経営する岩淵さんからは、宿内に飾られている「火の用心」の習字について、子供が6歳になると正月に書く慣習があり、書くとお小遣いがもらえるというお話を伺った。こうした慣習は、少子化とともに途絶えていってしまうものの一つではあるが、塩沢・十島地区の関係人口を増やすための方策を考える中で、地区外の子供達との交流のためのツールとなりうるとも考えられる。



### その他 只見町内の訪問地

▷ブナセンター（左）

▷ビーチバレーコート（右）



## 意見交換会

1 回目の意見交換会は平日の 19:00 からの開催だったため、地区内外で勤務する住民らと只見町職員の酒井さんを合わせて 10 名が参加した。当研究室からは学生 9 名と指導教員 1 名が参加し、学生は事前に用意した意見カードを用いてお互いの意見を記録していった。

意見交換会では、住民自身が担い手不足や、冬季の雪かきという重労働を伴う暮らしがあることなど塩沢・十島地区のおかれた状況を受け止め、危機感を抱いている印象であった。

移住者と観光客のどちらにより多く来てほしいかと問う場面では、移住者増加を望む住民がやや多かったが、ほとんどの住民がどちらも望んでいるという反応を示した。

移住者増加を望む側の意見には、若者に来てほしい気持ちはあるが、地区として特別に取り組んでいることはない、というものがあつた。また、移住者増加に対して学生の立場からは、河井継之助の墓の手入れ等、住民が取り組む集落の様々なことを、他所から来た人にも行ってもらうためには工夫も必要ではという意見もみられた。

観光客増加を望む側の住民の意見においては、只見線再開で撮り鉄は増えそうだが、観光客が地区にお金を落としてくれることが必要であり、撮り鉄による訪問者増では不十分だと示唆するものがあつた。自分たちからは、観光客増加を望むにあたっては、会津塩沢駅を訪れた人が滞在できるような場所が十分あるとは言えず、特に公衆トイレや休憩が出来る場所がないため、子ども連れの観光客には長時間滞在するには、不安があるのではといった意見が出た。



2 回目の意見交換会は平日の昼間ということもあり、酒井さんと住民 4 名との意見交換となった。参加した 4 名の住民はみな高齢者で、事前調査を基に深堀りすべきと考えた、買い物、病院、移動、居場所、雪かきといった、高齢者の生活に関する内容などを中心に意見交換を行った。

移動販売における近隣住民同士のサポートが必要なことや、デマンド交通は車を持たない住民の中でも一部の人に限定的に利用されている実態など、上記の項目について事前調査ではわからなかった部分について明らかにすることが出来た。また、1 回目の意見交換に引き続き、後継者不足に対する意見も多く出ており、集落に残る家族が誰もいなくなってしまうから自分が戻ってきた、という住民もいた。

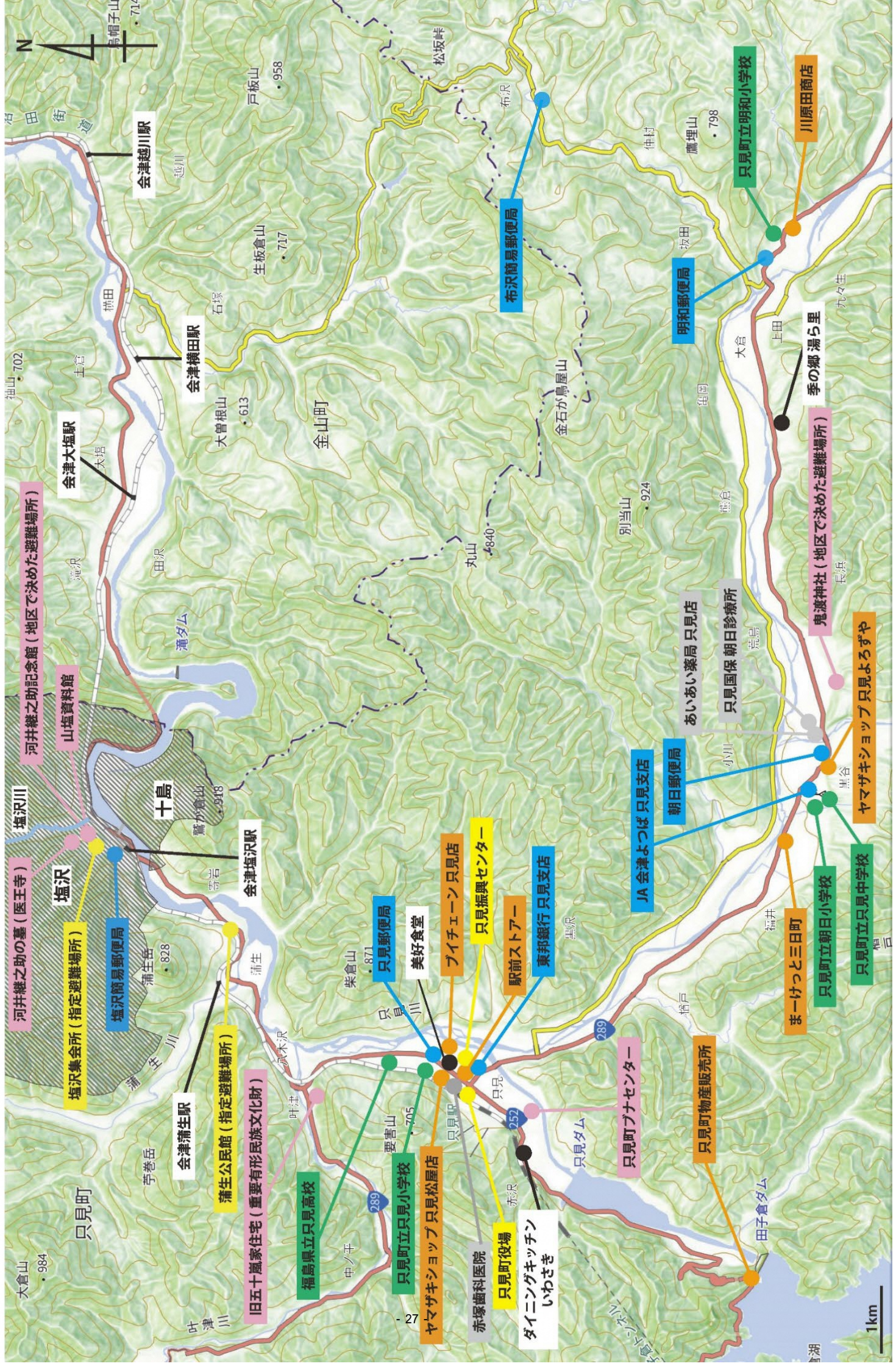
2 回にわたる意見交換会を通して、住民の方々は中長期的な方策よりも短期間で成果の出る方策を望んでいる印象を受けた。



# 只見町調査マップ

# 宮城大学 小地沢研究室

只見駅～河井継之助記念館：自動車で13分(8.8km)  
只見駅～季の郷 湯ら里：自動車で18分(13km)



- 金融機関・郵便局
- 役場・集会所・公民館
- 屋敷・夕食・宿泊場所
- 学校
- 病院
- 食料品店
- 観光施設

- 河井継之助の墓(医王寺)
- 河井継之助記念館(地区で決めた避難場所)
- 山塩資料館
- 山塩集会所(指定避難場所)
- 塩沢簡易郵便局
- 塩沢
- 会津浦生駅
- 浦生公民館(指定避難場所)
- 旧五十嵐家住宅(重要有形民族文化財)
- 福島県立只見高校
- 只見町立只見小学校
- ヤマザキショップ只見松屋店
- 赤塚歯科医院
- 只見町役場
- ダイニンググキッチン いわさき

- 只見郵便局
- 美好食堂
- ブイチェーン只見店
- 只見振興センター
- 駅前ストアー
- 東邦銀行只見支店
- JA会津よつば只見支店
- 朝日郵便局
- 朝日郵便局 只見店
- 只見国保朝日診療所
- あいあい薬局 只見店
- 只見町立朝日小学校
- 只見町立只見中学校
- ヤマザキショップ 只見よろずや
- まーけっと三日町
- 只見物産販売所
- 只見ブナセンター
- 只見町立明和小学校
- 川原田商店
- 季の郷 湯ら里
- 鬼渡神社(地区で決めた避難場所)

1km

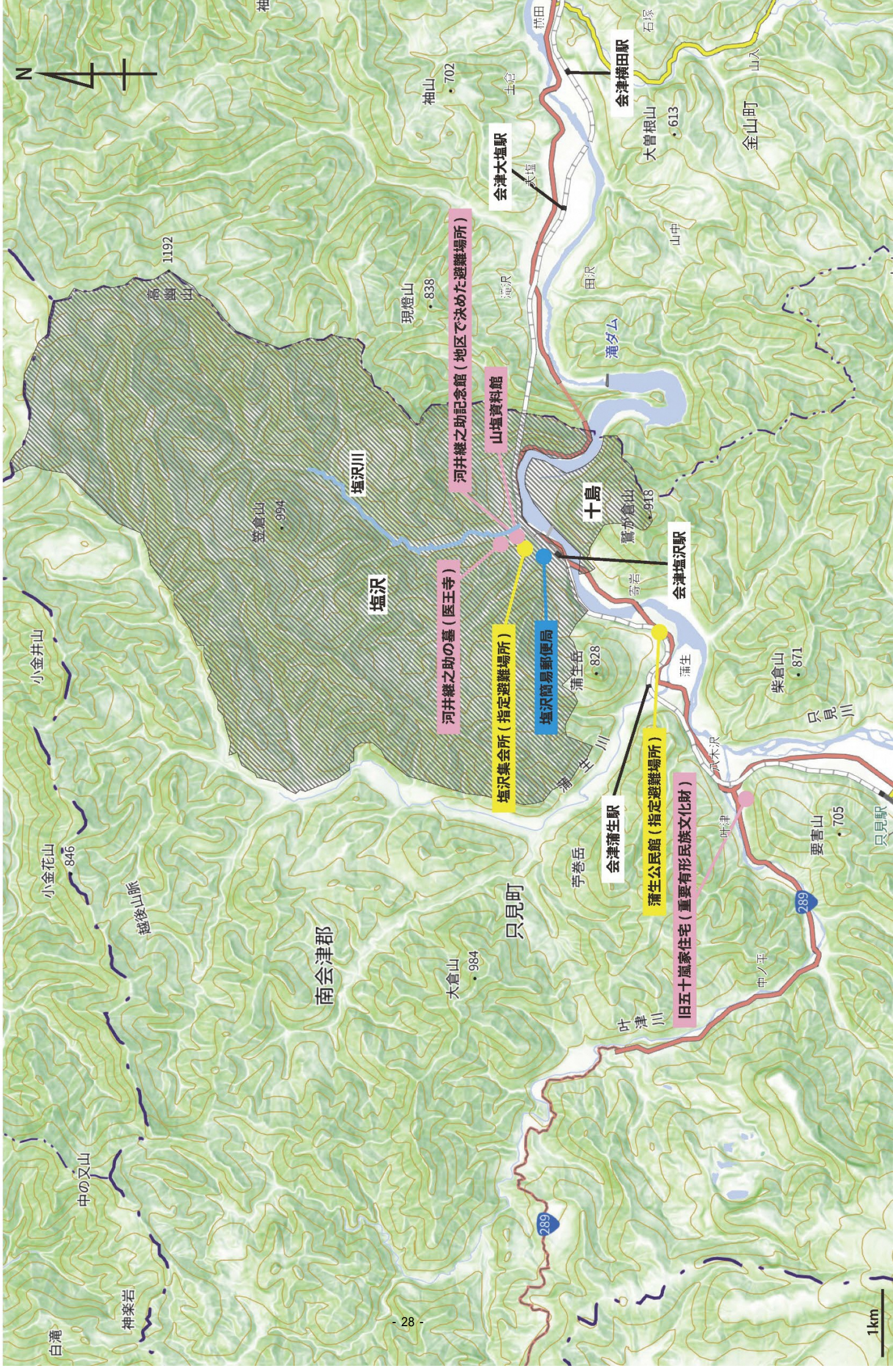
# 塩沢・十島地区

# 宮城大学 小地沢研究室

● 金融機関・郵便局 ● 役場・集会所・公民館 ● 昼食・夕食・宿泊場所

● 学校 ● 食料品店 ● 只見駅～河井継之助記念館：自動車で13分(8.8km)

● 病院 ● 観光施設 ● 只見駅より北では定期路線バスの運行なし



## 6. 塩沢・十島地区の強みと弱み

### 塩沢・十島地区の強みと弱み

	プラス材料	マイナス材料
地域の様子	強み	弱み
	<p><b>居場所</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・月1のサロン</li> <li>・サロンのお知らせは世代関係なくずっとやっている</li> <li>・冬場には集会所でカラオケをする</li> <li>・週2のゲートボールには余所から来る人もいる</li> <li>・コーヒー屋や民宿いわぶちでの不定期の集いがある</li> <li>・移動販売車が来ると耳の遠い近隣住民に声がけをする</li> </ul> <p><b>その他</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農作業を趣味とする住民が多い</li> </ul> <p><b>働く場所</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・求人はいっぱいある</li> </ul> <p><b>山菜</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・わらび園の営業は季節が限られるが、山菜がキーになるのではないかと。みんなで競い合う(葉っぱビジネス)</li> <li>・わらび以外の山菜も多く収穫できる</li> <li>・山菜の保存食</li> <li>・野焼きは人によっては珍しい光景</li> <li>・山菜祭り</li> </ul> <p><b>自然</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手つかずの自然</li> <li>・モンベル7つの目標</li> <li>・ダムの水力発電がある</li> </ul> <p><b>雪・自治</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各家庭で大型除雪機を持っている</li> </ul>	<p><b>交流・見守り</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣同士の声がけがゆくゆくは出来なくなっていく</li> <li>・近所に友だちが居ない</li> <li>・地域住民らが学習や文化活動に取り組めるような施設がない</li> <li>・冬の楽しみが少なく、雪が積もると出歩くのも難しい</li> <li>・集落を越えた集まりはほとんどない</li> </ul> <p><b>働く場所</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・只見ではチャレンジしたい若者をサポートしたいが、只見でチャレンジ出来ると外の人は知り得ない</li> <li>・案内人の雇用も新たな仕事として良さそうだが、雇い手がいない</li> <li>・林業は多少あるが発展しない</li> <li>・外部の人や若者が集落で働く環境をつくりたいが、給料が払えないケースもある</li> <li>・昔は農業で生計を立てていたが今は兼業農家のみ</li> </ul> <p><b>山菜</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で山菜祭りが開催できていない</li> <li>・わらび園の収入が伸びない 客一人あたり2,000円</li> </ul> <p><b>空き家</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・空き家問題</li> <li>・空き家バンクはなく、空き家登録に留まる</li> </ul> <p><b>雪・自治</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・雪かきの担い手不足</li> <li>・地形を把握していないと除雪は難しい</li> <li>・雪かきは朝から夜まで行う</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・雪があるためスキー教室が出来る</li> <li>・雪対策で上部な木造</li> <li>・草刈りで町民が協力</li> </ul> <p><b>病院・診療</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オンライン診療への興味</li> <li>・訪問診療は受けられる</li> <li>・高齢者にインターネットの使い方を教えることへの需要（働く場所）</li> <li>・火災を伝達する端末が各家庭にある</li> </ul> <p><b>移動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・雪ん子タクシーが一定の層（女性の高齢者）に利用されている</li> <li>・徒歩圏内に駅がある</li> <li>・車さえあれば町内で生活必需品はそろえられる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私道は自分達で雪かきをする</li> <li>・冬の仕事が出来ない</li> <li>・ダムの砂の除去の手伝いが欲しい</li> <li>・集落内で動ける人に仕事が集中する</li> </ul> <p><b>移動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・雪ん子タクシーは予約を入れるのが面倒</li> <li>・免許返納後は自家用車がない分、移動が制限される</li> <li>・人に頼みづらく、移動販売で間に合せている</li> <li>・足（移動手段）がなく、活動が集落内で留まってしまう</li> <li>・以前は医者があったが今は居ない</li> </ul> <p><b>産業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人口減少と共に閉店する店が相次いだ</li> <li>・田子倉ダムの売店に経営者がいなくて困っている</li> <li>・食事をするところがない</li> <li>・地場産業のブランド化ができていない</li> <li>・山菜は豊富だが戦略がない</li> </ul> <p><b>観光</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビューポイントはあるが案内がなく、行き方がわかりにくい</li> <li>・観光客が訪れた際に立ち寄れる情報発信場所がない</li> <li>・観光客向けのトイレがない</li> <li>・自然を楽しみつつ、生き物を学べる場があるといい</li> <li>・ロケーションの良さだけではだめ</li> </ul> <p><b>子育て・人口</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高校や大学進学タイミングで集落を出る</li> <li>・子育て、学びの環境は十分じゃない</li> <li>・小学生はおらず中学性が1, 2人</li> <li>・若者がいないことをなんとかしたい</li> <li>・孫がいても、近所に同じ年頃の子供がおらずかわいそう</li> </ul>
--	--

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路に関して、地元では選択肢が少ない</li> <li>・年をとったら集落に戻る流れが欲しい</li> <li>・寺の住職がいなくなり、葬儀等がある際には隣の集落まで行かなければならない</li> </ul>
社会 動向	<p style="text-align: center;">機会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お金を払って農業体験をするという考えがある</li> <li>・手仕事・工芸品には高い価値がある</li> <li>・堆肥の値上がり</li> </ul>	<p style="text-align: center;">脅威</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・若い人が生活環境になじめるか</li> <li>・地元の人と余所者との間のギャップ（それぞれの思う「当たり前」の違い）</li> </ul>

### 集落外の話題

#### 子育て

- ・只見振興センターで子供を見てくれる
- ・放課後子供クラブ、只見コミュニティクラブ

#### 働く場所

- ・只見駅前に3店舗オープン
- ・只見は、職場はいっぱいあるが、単価が低い
- ・南郷トマトを扱う農家がポツポツ出ている（移住者が栽培するケースも）  
収入が良い

#### その他

- ・只見町内での消防団の行き来がある
- ・空き家が243軒
- ・雪まつり

### 地域資源

	原始的地域資源	成長・発展した地域資源
物的 資源	積雪の多い気候、 山に囲まれた自然を感じる地勢、 ダム、 ブナ、手つかずの自然、 エコパーク	塩沢集会所、十島ビューポイント、只見川沿岸の風景、 JR 会津鉄道、わらび園、山菜、 (火の用心の習字の慣習) 河井継之助記念館、河井継之助の歴史
人的 資源	余裕がない中でも、もてなすホスピタリティ	
ソーシャル・キャピタル	コロナ以前のサロン活動、 田んぼや河井継之助の墓の共同管理	振興協議会



## 7. 提案

### 提案の方針

只見町塩沢・十島地区における地域課題解決のための提案の方針は、当地区の地域資源を活用し、住民の生活の質の向上または移住者・観光客増加のための取り組みとなることを目指すことである。

住民の生活の質の向上に寄与する提案としては、住民の交流機会の創出を目指す提案を短期的と中長期的の2つのスパンで考えた。この提案で活用する地域資源は、住民の憩いの場である簡易郵便局、活動の拠点として活用できそうな2階建ての塩沢集会所他、塩沢・十島地区内の諸施設である。加えて、既存の協議会、移動販売車の到着時に見られる近隣住民による声かけの習慣といったソーシャル・キャピタル的資源である。コロナ禍で減少している住民同士の交流機会の創出や、今後、高齢化に伴い危惧される高齢者の孤立を防止するための相互の見守り、生涯学習施設を地区内に設けることによる住民主体の活動の促進、冬季の活動の場の創出といった効果が期待される提案を目指す。

移住者・観光客増加に寄与する提案としては、観光客の滞在目的の創出を短期的な提案として、塩沢・十島地区の産業の担い手の獲得を長期的な提案として考えた。活用する地域資源は、短期的な方では、只見線再開通によって利用者が増加している会津塩沢駅、住民らがつくれる山菜や野菜である。長期的な方では、山菜祭りという伝統的なイベント、野焼きの作業、わらび園の広大な土地、十島ビュースポットをはじめとした場所によって異なる眺望が楽しめる只見川沿岸である。現在の塩沢・十島地区は、河井継之助関連の観光スポットはあるものの、その他に観光できる場所や休憩場所が少ない印象があり、住民らと観光客とが交流する場面もあまり多くはないと感じられた。交流人口拡大のためには、住民らが観光客をもてなすような振る舞いのできる取り組みを通じ、多世代に訪れられ、興味をもってもらえることが必要と考え、そのための提案を目指す。

### 提案内容

提案の方針に基づき、まず、住民の生活の質の向上を目的とする提案として「月1サロンから始めよう」と「大人の学び舎」の2つを考えた。これらは、既存協議会やコロナ前まで開催されていたサロンを基盤とし、比較的短期的に取り組める「月1サロンから始めよう」と、活動のための拠点を集落内に新たに見いだそうとする中長期的に臨むべき「大人の学び舎」との2つの提案が繋がるような構造である。それぞれの提案内容の詳細は下記の表に示した。

それから、移住者・観光客増加を目的とする提案として「SHIOJU まるしえ」と「野山育む山菜祭り」の2つを考えた。「SHIOJU まるしえ」は、只見線再開通で利用者がみられる会津塩沢駅を活用して交流人口の創出を目指そうとする短期的な提案であり、「野山育む山菜祭り」は、コロナ禍で中止が続いているが、伝統あるイベントである山菜祭りをを用いて若者の関係人口創出を目指そうとする長期的な提案である。2つの提案は、関係人口増加を目指すという点で共

通した提案だと考えている。これらの提案内容の詳細についても下記の表に示した。

なお、各提案は、以下のフォーマットに沿って作成した。

問題提起	解決すべき課題/向上させたい生活の質
テーマ設定	プロジェクトのテーマ
	だれが/いつ/どこで/何を/誰に・誰と/なぜ/どのように/いくらで
企画案の提示	具体的な手段
	品質/コスト/納期/スコープ
企画案の評価	期待される効果、どのように課題解決されるか
実行計画	プロジェクトのチームやパートナー、進捗管理

(出典：小地沢将之，まちづくりプロジェクトの教科書，森北出版株式会社，2020年，142p)

提案	月1サロンから始めよう	
短期	短期	
問題提起	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 独居高齢者が増えることを想定した日ごろの見守り体制の構築</li> <li>・ コロナ禍によって失われた住民の交流の場の再興</li> </ul>	
	<p style="text-align: center;">背景</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 塩沢・十島地区は只見町の中でも超高齢化集落であり、住民らがこれからの見守り体制について不安を感じていた。</li> <li>・ コロナ禍でサロンの取り組みができておらず、住民らの交流の場が減少している。</li> <li>・ 只見町では生活支援体制整備事業（※実施主体は町から委託を受けた只見町社協）の取り組みとして、「通いの場」の立ち上げ支援や、地域づくりサロン事業の導入などに取り組んでいる。</li> <li>・ 平成27年当時には、塩沢・十島・寄岩集落は、超高齢化を迎えた集落ではあるが、行政がサポートしなくても集落全体で支え合う仕組みが確立されていると評価され、既存協議会のもと、地域の取り組みを活かしながら、地域の支え合いづくり、生活支援体制の確立を目指している。</li> </ul> <p>【既存協議会の取り組みについて】</p> <p>農産物の直売や、塩沢山菜まつりの開催、塩沢簡易郵便局の裏側に食品加工所を整備、町文化祭で野菜、山菜、加工食品を出店、地元で採れた山菜やきのこをふるさと交流都市である千葉県柏市の直売所へ出荷、等の活動をしている。</p>	
テーマ設定	郵便局×山菜＝福祉×地域おこし＝顔の見える支え合い体制 「月一サロンから始めよう！通いの場へみんな来てね」プロジェクト	
	だれが	学生、既存協議会のみなさん
	いつ	サロン開催時山菜祭りなどのイベント開催時
	どこで	簡易郵便局
	何を	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ サロンの運営</li> <li>→ 住民が気軽に通える場の整備する、月一サロンの開催する</li> <li>・ サロンと集落をつなぐ</li> <li>→ 住民にサロンの開催、集落のトピックス（只見線など）についての情報発信をする</li> <li>・ 既存協議会の活動情報発信</li> <li>→ 山菜祭りなどの行事を発信して十島・塩沢に興味を持つ人を増やす</li> </ul>
	誰に/ 誰と	塩沢・十島にお住まいの方に 全世界の只見町ファンの皆さんに
	なぜ	・ 見守り体制の強化が求められているため・住民の交流の場が失われてしまったため
	どのよ	・ 既存協議会の方と住民らの直接的なコミュニケーション

	うに	・紙媒体やインターネットによる情報発信
	いくら で	印刷費＝役場で出来るか プリントパックであれば、1回 5000 円程
企画案 の 提示	<p>①学生が協議会から情報を提供してもらい、紙とデジタルの両方による情報発信を担当する。</p> <p>②可能であれば、デザイン講座を開催。チラシの簡単な作り方、SNSの投稿記事の作り方を学んでもらう。</p> <p>③協議会のみなさんが、情報発信ができるようにサポートする。</p>	
	<p>①サロンや協議会の運営状況を確認する。</p> <p>②通いたくなるサロンについて住民と意見を交換する。</p> <p>③学生がサロンの運営、情報発信の補助をする。</p> <p>④協議会だけでサロンの運営、情報発信できる。</p>	
	品質	協議会が自立してサロンの開催し、見守り体制の確立ができる
	コスト	学生の交通費
	納期	2024 年の報告会
企画案 の 評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サロンによる地域の見守り。</li> <li>・紙媒体でサロン開催の告知用チラシを作り、手渡しをすることで、顔を合わせる機会が生まれ、見守り体制の強化が図られる。チラシで、正確な情報をお伝えすることも出来る。</li> <li>・健康な高齢者（介護保険対象外）のサロンへの参加が必要。介護保険対象外の人たちへのアプローチは隣近所の助け合いが期待されている。</li> <li>・当日来られなかった人に対してもサロン開催報告を行い、次回の出席の意欲を引き出すように努める。介護支援のことや生活支援の情報も掲載することで、日ごろ困っていることの解決の糸口になることも期待されている。</li> <li>・わらび園情報や、地域のトピックスについての情報を発信により、関係人口の増加が期待されている。</li> </ul>	
実行 計画	<p>チーム：宮城大学小地沢研究室、既存協議会</p> <p>パートナー：只見町役場、塩沢・十島地区の住民の方々</p> <p>2023 年 4 月～ サロンや協議会の状況確認、計画の詳細立案</p> <p>2023 年 8 月～ 現地の方々との意見交換、運営や情報発信補助</p> <p>2023 年 10 月～ 実行結果の振り返り、改善案の検討</p>	

提案	大人の学び舎	
短期	中長期	
問題提起	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ只見町内でも地区ごとに距離があり、地区外に出向いて生涯学習施設を利用することがほとんどない。</li> <li>・雪かきという重労働に追われる冬の間は特に、塩沢・十島地区の住民が雪かき以外で自宅外のどこかで生き生きと活動する場がない。</li> <li>・コロナ禍で住民同士の関わり合いが減っている。</li> </ul>	
	<p style="text-align: center;">背景</p> <p>現代では、塩沢・十島地区の住民が利用しやすい学習や文化活動に取り組める場所が近場になく、コロナ禍もあり地区内の住民同士が触れ合う機会がほとんどない。</p>	
テーマ設定	地域住民の生涯学習の機会の創出	
	だれが	小地沢研究室の学生
	いつ	郵便局での月1サロンが復活した後 郵便局での月1サロンが復活して、住民同士のコミュニティが築かれた後、月1のサロンで行われている活動内容を発展させていくイメージ。
	どこで	塩沢・十島地区の集会所（、河合継之助記念館）
	何を	集会所等を活用した地区住民のための生涯学習空間のレイアウト提案
	誰に/ 誰と	塩沢・十島地区の住民に向けて、他地区の住民が来訪し地区間の交流も想定している。
	なぜ	塩沢・十島地区外の生涯学習施設は立地の都合で利用しづらく、生涯学習の機会が失われているから。
	どのよう に	新施設を建てるのではなく、塩沢・十島地区にある既存の建物を活用して生涯学習の場を設ける。
いくら で	1人月300円程度の地区会費を集めたものに加え、学生助成金等を獲得する。 また、空間完成後に行うイベントや学習活動への参加には住民から参加費をとる。	
企画案の提示	スコープ	只見町塩沢・十島地区
	品質	新提案した場を地区住民の50%が利用すること。住民の声を聴き満足度もはかる。
	コスト	町内会費+αでまかなえる程度
	納期	2027年（4年） 1年目：ヒアリング等を行い、設計を始める 2年目：設計を見せ、意見交換を行う。そして設計の修正を行う。 3年目：設計図が完成し、レイアウト変更を始める。不便な点等も随時聞きながら改善をはかっていく。

	4年目：変更後の改善も終え、PJ終了
企画案の 評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区外に出ずとも地区内で冬季も住民同士の交流や活動の場ができ、生き生きとした暮らしの提供につながる。</li> <li>・地区住民が地域の歴史について知り、地域の新たな価値を見出すきっかけにしたい。</li> <li>・地域について学んだり、住民同士が関わったりすることで地域に誇りを感じるようになってほしい。</li> </ul>
実行 計画	<p>① 空間でどのようなことができたなら良いか地区住民へヒアリングを行う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍でも集会所でできるイベントがないか考える。 例：健康運動、パソコン・スマホ教室、</li> <li>・河合継之助記念館とも連携して、ガイドを行ったり、クイズラリーを行ったりして大人でも楽しく学べるようなイベントを考える。 ←どの施設をレイアウト変更に用いるのかによる。</li> </ul> <p>② 設計図作成</p> <p>③ 地区住民からの意見反映</p> <p>④ 設計図完成</p> <p>レイアウト変更：生涯学習空間の完成</p>

提案	SHIOJU まるしえ	
短期	短期	
問題提起	働き手を集めたいという地区住民の意見があり、そのためには集落で採れる山菜や野菜、つくられる加工品を活かし切れていない状況の打開が必要である。	
	<p style="text-align: center;">背景</p> 塩沢・十島の地区住民が売り出したいと考える作物はあるが、現状では生産体制や商品価値の高め方が検討できていない。 また、山菜まつりや自然観光ワラビ園を中心とした集客もコロナ禍では停滞し、塩沢地区の山菜を地区外の人に食してもらおう機会がなくなっている。	
テーマ設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会津塩沢駅前での市の開催を通し、集落でつくられる山菜や加工品を販売する機会の創出</li> <li>・塩沢駅に訪れる観光客の滞在目的の創出を目指す。</li> </ul>	
	だれが	学生と住民
	いつ	2023年9月。 5、6月頃から準備。住民には、3月頃に話をしておく。
	どこで	マルシェ開催は塩沢駅前。打ち合わせ等はオンライン。
	何を	市の開催に向けた準備と、市の開催。 学生は市で使用する旗やPOPのデザイン、市で提供する商品のリサーチ（役場へヒアリング）、広報活動、市の宣伝ポスターの作成 住民は出品する地場産業の提供、会場の準備、打ち合わせへの参加、住民同士の話し合い
	誰に/ 誰と	学生は住民と。 住民は住民同士と、学生と。そして観光客に。
	なぜ	塩沢・十島地区で採れる山菜や加工品を外部に広めるきっかけを作るため。 住民にとっては、集落のコミュニティの活性化のため。
	どのよ うに	<ul style="list-style-type: none"> <li>①鉄道の撮影目的の観光客や、外国人観光客といった会津塩沢駅利用者を対象に塩沢・十島地区の山菜や野菜、加工品を手にして買ってもらうことで、塩沢・十島地区でつくられる農作物等を知ってもらう。</li> <li>②観光と地場産業の販売という形で、鉄道利用者の新たな滞在目的を創出することで、塩沢・十字地区のホスピタリティを示す。</li> <li>③学生は市の開催実現に向けた準備をする。</li> <li>④住民は自分達がつくったものを地区外の人に向けて提供する。</li> </ul>
いくら で		
企画案	スコープ	只見町塩沢・十島地区

の 提示	品質	利用者 80 人以上、収益 16 万、定例化
	コスト	10 万（出店費、事業参加費として集める）
	納期	2023 年 10 月
企画案 の 評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 観光客を対象にした、集落の山菜や野菜、加工品の販売機会を創出する。</li> <li>・ 運行間隔の大きい会津塩沢駅を利用する観光客に向けて、新たに滞在目的を提供することで、塩沢・十島地区のホスピタリティの起点とする。</li> <li>・ 住民らの生産に対するモチベーションアップ。</li> <li>・ 出店者を中心とした地区住民同士のコミュニティの活性化。</li> <li>・ 外部の人に向けて、集落でつくられている生産物をまとめてアピールできる。</li> </ul>	
実行 計画	<p>3 月 住民に市の開催を提案</p> <p>5 月 販売したいものリストの提出</p> <p>6 月 リストを元に、第一回目の市のコンセプトを決定 （現地訪問時期の候補）</p> <p>7 月 販売方法、価格設定、会場の決定等、旗や POP デザインの作成</p> <p>8 月 必要な備品の確保、旗や POP デザインの修正確認作業・納品 （現地訪問時期の候補）</p> <p>9 月上旬 市場の開催 （現地訪問時期の候補）</p> <p>9 月末 合同反省会、定例化にむけた計画の作成</p>	



提案	野山育む山菜祭り	
短期	中長期	
問題提起	<p>「塩沢・山の幸山菜祭り」は過去、年に1回（毎年6月初旬）、計23回開催されている伝統的なイベントであるが、新型コロナウイルス蔓延以降は開催できず今日に至っている。また、地域に次世代の担い手となる20代・30代の住民を増やしていくためにも、若い世代に向けて地域の魅力を示していく必要がある。</p>	
	背景	
	<p>住民らも、山菜イベントを塩沢・十島地区の強みとして認識しており、ヒアリングの際には「これを人口拡大の起爆剤にできたら」といった意見もあった。まずは交流人口を拡大し、塩沢・十島地区の良さを他地域の方に認識してもらうため、「山菜祭りの復活・リニューアル」が必要である。</p>	
テーマ設定	塩沢・十島地区と若い世代の人たちを繋げていくような山菜祭り	
	だれが	塩沢・十島地区の地域住民
	いつ	山菜祭り
	どこで	塩沢・十島地区
	何を	塩沢・十島地区の魅力、山菜の素晴らしさを伝える。
	誰に/ 誰と	祭りに訪れた（若い世代の）人たち/小地沢研究室と
	なぜ	
	どのよ うに	<ul style="list-style-type: none"> <li>①SNSを活用した広報活動</li> <li>②会場レイアウト、マップ作成</li> <li>③小規模なマルシェ開催の提案</li> <li>④子供向け企画・ブースの提案</li> </ul>
いくら で		
企画案の提示	<p>①SNSを活用した広報 わらび園焼払いの時期からアカウントを開設。宮城大生と住民らとの間で共有し、PRする。</p> <p>②会場レイアウト、マップ提案 現地調査に行き、住民らの話を聞きつつ、駐車場、祭り会場、トイレなどのレイアウトを考案し、提案する。子供・乳児連れにも対応した、トイレ・授乳室などの機能を盛り込んだレイアウトを。</p> <p>③小規模なマルシェ開催の提案 喫茶店などの周辺店舗や、山菜料理、工芸品を販売するマルシェを提案。</p> <p>④子供向け企画・ブースの提案</p>	

	子供連れの訪問客向けに企画・ブースの提案。 (流しそうめん・そば、ボールプール、お菓子釣り、くじ引き抽選会等) スコープ 只見町塩沢・十島地区	
	スコープ	只見町塩沢・十島地区
	品質	—
	コスト	—
	納期	—
<b>企画案 の 評価</b>	塩沢・十島地区の魅力を伝えられたことで、山菜祭りのリピーターを得ることができ、 交流人口が年々増加していく。	
<b>実行 計画</b>	2023 年度 <input type="checkbox"/> 現地調査に行き山菜祭りについてのヒアリング (2023 年度に山菜祭りが再開しているなら、課題点なども併せて) <input type="checkbox"/> ②、③、④の提案を練り、住民らにお知らせ。(遅くとも 11 月～12 月まで) 2024 年度 <input type="checkbox"/> アカウント運営開始 <input type="checkbox"/> 祭りに関する詳細事項の決定 <input type="checkbox"/> (6 月第 1 日曜日) 現地にボランティアスタッフとして設営・運営のお手伝い	

## 8. 今後に向けて

次年度以降の取り組みは、短期的な取り組みとして考えた「月1サロンから始めよう」と「SHIOJU まるしえ」のいずれかの取り組み実施を考えている。

### 「月1サロンから始めよう」

サロンの活動発足と継続に向けた土台づくりの取り組みを通して、塩沢・十島地区における相互の見守りとコロナ禍で減少した住民の交流機会の創出を目指す。

主体	2年目の取り組み	その後の展開
<ul style="list-style-type: none"> <li>・小地沢研究室</li> <li>・地元の既存の協議会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元の既存協議会の運営状況の確認</li> <li>・企画の具体化</li> <li>・住民に対する周知</li> <li>・月1回のサロンの開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サロンの開催の継続化</li> <li>・集落のトピックスに関する情報発信、SNSの投稿記事づくり</li> <li>・地元の既存協議会だけで運営・情報発信が出来る体制の構築</li> </ul>

### 「SHIOJU まるしえ」

会津塩沢駅前でのマルシェの開催を通して、塩沢地区で生産できる山菜や野菜の販売機会の創出と、塩沢・十島地区を訪れる観光客の滞在目的の創出を目指す。

主体	2年目の取り組み	その後の展開
<ul style="list-style-type: none"> <li>・小地沢研究室</li> <li>・住民</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出品するもの、出店者リストの作成</li> <li>・のぼりやPOPの作成</li> <li>・まるしえの開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まるしえの定期開催</li> <li>・山菜祭りとの連携</li> <li>・情報発信</li> </ul>

## 9. 参考文献

・只見郷振興協議会, 「平成 30 年度『そば処しおさわ庵』の営業終了のお知らせ」, Ameba, <https://ameblo.jp/siozawa252tadami/entry-12418370522.html>, (2023/01/12)

## 10. 謝辞

今回の調査にあたり、只見町職員の酒井係長を始め、塩沢・十島地区の皆様におかれましては、集落の案内や、お忙しい中意見交換会にご出席賜りまして本当にありがとうございました。限られた時間の訪問ではありましたが、集落の方々と意見を交わし、集落の実情と向き合う経験を得られたことで、ゼミ生の中には、塩沢・十島地区の抱える課題解決のための提案に通ずる研究成果、設計提案に辿り着いた学生もおりました。このことは、酒井係長及び集落の皆様が、本事業における私達学生との関わりを大切にしてくださったおかげでもあったと感じております。ありがとうございました。